

<div>会議等名称</div> <div>令和3年度 第2回箕面市保健医療福祉総合審議会</div>	<div>開催日時</div> <div>令和3年(2021年)11月10日(水) 14時から16時00分まで</div>
	<div>開催場所</div> <div>箕面市立総合保健福祉センター分館 2階 講堂</div>
	<div>出席者</div> <div>出席委員:明石会長、内藤委員、齋藤委員、石井委員、徳岡委員、林委員、 西野委員、安達委員、安東委員、石田委員、岡委員 以上11名</div> <div>欠席委員:松端委員、中委員、村松委員、奥田委員、山口委員、高林委員 以上6名</div>
<div>事務局</div>	<div>【健康福祉部】北村部長、村田副部長 (健康福祉政策室) 村中室長、奥野、尾崎 (障害福祉室) 溝越室長、永井担当室長 (地域包括ケア室) 中村室長、七樂参事、毛利参事、松尾参事、中野参事 (地域保健室) 中出室長、橋本担当室長、中島参事、高橋 (高齢福祉室) 長谷川室長 (生活援護室) 大越室長 (広域福祉課) 中島課長、三浦担当室長 以上20名</div>
<div>傍聴者</div>	<div>0名</div>
<div><資料></div> <div>【案件1】箕面市地域福祉計画について(健康福祉部)</div> <div>資料1-1 第2期箕面市地域福祉計画(素案)</div> <div>資料1-2 パブリックコメント手続実施要項(案)</div> <div>【案件2】箕面市障害福祉計画・箕面市障害児福祉計画について(障害福祉室)</div> <div>資料 2 第5期箕面市障害福祉計画・第1期箕面市障害児福祉計画の実績(成果目標)について</div> <div>【案件3】その他</div> <div>箕面市自殺対策推進計画について(地域保健室)</div> <div>資料3-1 第1期箕面市自殺対策推進計画</div> <div>資料3-2 相談窓口一覧</div> <div>資料3-3 進捗管理シート</div> <div><会議録></div> <div>【はじめに】</div> <div>◇会長あいさつ</div> <div>◇出席状況確認(過半数の委員が出席のため会議成立)</div> <div>◇配付資料確認</div> <div>【案件1】箕面市地域福祉計画について</div> <div>●事務局からの説明</div> <div>(健康福祉政策室 資料1-1・資料1-2について説明)</div>	

●意見等

(安達委員)

54 頁のイメージ図の中に社会福祉法人が入っていますが、今箕面市内では 22 の社会福祉法人が事業を展開しております。行政や社会福祉協議会の手の届かないようなところがありましたら、是非活用して頂きたいと思います。

(明石会長)

ありがとうございます。だいたいどの計画も市と社会福祉協議会の計画が連携していくということが書かれていますが、社会福祉協議会は社会福祉協議会で推進委員会をつくったりして内部で情報共有されている、そして市は市で総合審議会で共通認識を醸成されていますが、その間に推進会議をつくられて組織と組織が共通認識を持って評価・点検をしていくという仕組みは珍しく、すばらしいよい取り組みだと思います。市の計画と社会福祉協議会の計画は車の両輪で、真ん中がハンドルにあたるのではと思います。共通認識の持ち方、点検評価の方法もつられていくのではないかと思います、総合審議会でも報告して頂くことになっていると思います。

(内藤委員)

非常に内容の濃い計画書で勉強になります。61 頁の「計画の推進に向けて」ですが、関わっている主体が連携しながらやることは大切ですが、目標設定や評価・点検はどのような形でしていくのかここでは示されていないのですが、今後の予定や継続的にものごとを進めてどういう体制で改善していくのか、評価の仕様をあらかじめ想定されているのか、件数のアウトプットの評価は出せますが、そのあとの成果・結果はどう評価されるのでしょうか。

(明石会長)

重要で難しい問いかけだと思います。指標をどうつくるのかという問題があります。地域福祉では何人来たかというアウトプットはできますが、どんなふうに進んだかという成果はとりづらいのですが、事務局はどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。地域福祉計画につきましては当然のことながら成果の点検をやっていくことということで、具体的には今後の取り組みになっていくのですが、38 頁以降に計画の基本理念、基本目標を記載しております。今後想定している予定ですが例えば 38 頁「つながりの再構築」のなかに、取組内容として 01～03 まで計画しております。今後この取組内容に合致する庁内のすべての事業をここに紐付けていきます。

その後でそれぞれの事業ごとに成果の議論をさせて頂いて評価すべき値を整備していきたいと思います。振り返りにつきましては、年に 1 回年度が明けたときに振り返りをしてそれをもって本年度方針、その繰り返しで運用していきたいと思います。

それらの会議につきましては、計画策定チームということで関係室長が集まる会議を今回策定しましたので、そういった会議を今後発展させていければいいなと思っています。

(内藤委員)

方向性が見えてきました。行政や関係団体で評価していくが、受益者の満足度などの評価もあるとより意味のある評価になるのではないのでしょうか。

(石田委員)

検討チームをつくっているということですが、右側の社会福祉協議会は流れがわかりますが、市の各施策の取組内容も具体的にわかるとういと思います。

また、「はじめに」の内容でコロナの引用がピンとこないので、わざわざこんなものを引用しなくても 19 頁にコロナでどういう状況になったかが出てくるので、引用よりも箕面市の分析、地域の実態をもう少し書いてもらいたいと思いました。

2 頁に関してですが、第 1 期の計画は非常によかったと思います。いろんな事情があつて、市のほうでは職員さんはきっと 1 期の計画が本当にきちんとできていたら良かったと思っている、もちろん社会福祉協議会でも思っていますが、書いてあることは本当に今のときを見越したくらいに書いてあるので、もう少し背景の中に 10 年間の動きを書くべきだと思います。例えば相談自立支援でも単なる相談支援でなく伴走型であったり、新しい言葉の相談がここに盛り込まれていたわけですから本当にできていたのかなど振り返っておいた方がよいと思います。

そこに大切な、見落としとしてはいけない視点があると思います。そのひとつが「顔の見える関係にない人」で、これが第 1 期のキーワードだったと私はと思いますが「顔の見える関係にない人」たちの支援というのをもう少し言葉であちらこちらにおさえてもらったほうがよいと思います。

社会福祉協議会のやっている事業は「顔の見える総合相談事業」となっているのでそれは変えられませんが、常に「顔の見える関係にない人」たちの相談支援を頭に入れながらそれぞれのポイントをおさえて欲しいと思っています。

(明石会長)

ありがとうございます。ご参考にして頂ければと思います。

(徳岡委員)

コロナについての文章ですが、致死率は高くないので事実と反しています。人類が戦う最高の武器は情報だといいますが、委員の中に IT の専門家は入っていますか。人口 100 万人あたりの死者数がいちばん多いのは大阪府で全国トップです。これは行政に責任があると思います。感染者数ばかり見っていますが、いちばん怖かったのは第 4 波です。感染すれば後遺症が残ることもあるが死者数が大事で、大阪は死者数が突出して多いという、そういう情報が全然伝わっていない。情報が大切です。情報が伝わるかどうか。IT の専門家がこのなかに加わっていないと思います。

(明石会長)

ありがとうございます。根拠に基づいたデータの提示、IT 関係者の参加が必要ということをお話し頂きましたがいかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。IT の担当部門の職員は入っていません。今後手段を検討する際はその分野の助言も頂きながらやっていきたいと思っています。

●事務局からの説明

(健康福祉政策室 資料1-2について説明)

●意見等

(石田委員)

この計画は練られ方が足りないと思います。29 頁ですが、いちばんはじめはこの図ではなかったと思います。キーペーパーがありました。そのキーペーパーからこれに変わったというのは現場の職員にはで知らなかったわけです。前のキーペーパーでは「個別支援はするな」ということだったが今回個別支援、個別相談が明記されていますからなし崩し的にこれでいくよというのではな

く、現場に聞いて頂きたいと思います。

子育てセンターと日常生活自立支援のところもどんなふうな形で連携されているのかが記載されていないということと、連携と書かれているだけでコミュニティの姿が出てこない。地域共生社会というのは住民が中心になって困っていることを一緒に解決しようという、10年前にはなかったものです。そのところをもう少しコミュニティというものを出して頂きたい。

もうひとつは、行政の人たちは平気で“人づくり”という言葉を使います。ある市民は「“人づくり”というのはおこがましいね」という感想を言いました。私もそう感じました。これは完全に当事者の視線です。地域共生社会で“人づくり”という言葉が乱発するのはよくないと思います。市民からみたら結局私たちは利用されて助け合いで行政の片棒を担がされるのか、という声を聞かれたことがあると思います。私たちは今そういう人たちに対して、そうではなく実態をつくりながら市民のかたがそれを生きがいにつなげていくような形で取り組みを進めていて、それを私たちが指導するのではなく住民自らが助け合いをしていくことによって自分の生きがいを見つけていくことが大切だとしっかり伝えるべきだと考えます。現実にはそういうふうに変った人を私は見えています。

行政はこの視線に十分気をつけてください。「地域福祉を推進するために必要な環境整備」というような言葉で代用可能ですし、国もそう表現していますから、ここでいう人づくりが人材育成ということであれば、市民向けの人材育成と職員の人材育成とわけて、誤解や上から目線だと受け取られるような表現とならないように気をつけてもらったらと思います。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。言葉遣いについてはいろいろ調べさせて頂きたいと思います。29 頁については誤解があるかもしれませんので説明させて頂きますと、こちらは箕面市の現状を図式化したもので、将来目指すべき姿ではないということをご理解をお願いしたいと思います。

ささえあいステーションは何をするのかという地域づくりというところで、個別相談支援から地域課題を把握し、個別支援を効果的・効率的にするための受け皿として地域の社会資源を開発、という点をしっかりさせて頂きます。今、専門相談ということで支援が必要となった場合に、個別支援をするためにはこの専門相談機関と連携しながら支援を進めるという例ですので、この図が将来像を表したのではなく、箕面市が目指す将来像につきましては第 4 章の図がキーパーとなります。

箕面市全体として本市が目指す総合相談支援体制は、専門職による総合相談の仕組みと、地域住民・団体の支え合う関係づくりの間に、E の顔の見える総合相談支援事業があり、そこで専門機関と地域団体をつなぐ動きをすることをイメージした図です。前回お示した素案のときは、ささえあいステーションの将来像ということで、もともと想定していました包括のブランチとしてささえあいステーションをつけておりましたが、今現在それはやっておりませんのでそれは適切でないということで今回差し替えさせて頂きました。

(石田委員)

今説明してもらったようなことが現場には伝わっていません。この図を見て現場のほうは疑問を持っていますので、丁寧な説明をしてもらわないと前に進みません。

(明石会長)

日常から情報を共有して共通認識をお互いに持ちながらやっていくことが大事だというご指摘でしたが、前回以降かなり情報共有・共通認識が生まれてきているかなと思いますが、今後さらに進めて頂ければと思います。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。計画そのものより現場での意識合わせに関するご指摘だと思いますので、地域福祉計画・活動計画が両輪であるように、改めるところは改めていきたいと思います。

(安東委員)

38 頁にあるように、地域の団体に加入せず「つながりを持たない人」と「参加する人」の二極化が生まれているのは事実で、私が昨日人権教育施策推進会の会議に参加したときに、障害のあるお子さんの保護者から「コロナでつながりが分断されている」、「保護者同士で連絡が取り合えない」という声を聞きましたが、私が保護者のときから保護者会や子ども会などに入ると、なにか役をしないといけないので大変だなどと言われ PTA 離れと言われるくらい二極化の問題はあり、住民の気づく力やつながる力を育むのはいうのはすごく難しくと思います。

そして石田委員からのご意見のとおり私も“人づくり”の言葉にすごく違和感を持ちます。地域福祉に関わる多様な人材の育成は、私も活動している当事者ですが、なんとかしていかないといけないし、どのように発信すればつながろうという気持ちをかきたてるのか、これからもっと力を注いでいかないといけないと感じました。

人材の確保・育成については自殺対策推進計画のいちばん後ろに数字化されているので、これを地域福祉計画に持ってくればよかったのにと残念に思いました。地域福祉計画はすごく大切なもので、民生委員・児童委員や、地区福祉会の皆さんが頑張ってくださいって推進できるという側面あるので、もう少し情報共有をしっかりと欲しいと思います。

(明石会長)

ありがとうございます。

【案件2】箕面市障害福祉計画・箕面市障害児福祉計画について

●事務局からの説明

(障害福祉室 資料2について説明)

●意見等

(内藤委員)

コロナでの影響で直近に何か悪い影響がありますか。また一般市民と比較して相対的な比較ができますか。

(事務局)

コロナの影響につきましては、工賃月額に関して、バザーができなかった関係で生産活動に影響を受けているという報告は受けております。また、一般企業の採用数が減少していることによって、一般就労移行が難しくなっていることが想定されると思いますが、直接的に傾向として分析しているものではありません。一般市民との比較につきましては分析しておりません。

(石井委員)

工賃が少しずつ上がっていると聞いておりますが、H28年度実績より下がっているのではないのでしょうか。

(事務局)

いったん下がったうえで、H30年度13,322円→翌年度13,669円→昨年度14,170円と上がってきています。第4期にいったん下がったため下がったように見えています。

【案件3】その他 箕面市自殺対策推進計画について

●事務局からの説明

(地域保健室 [資料3-1]～[資料3-3]について説明)

●意見等

(石井委員)

[資料3-1]の6頁で、大阪府では死因順位、箕面市は階級別の割合をあげていますが、比べるなら同じものを比べるのが論理的だと思いますが、これでは違うもので比べた表になっています。(明石会長))

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘のとおり大阪府と比べられるようなグラフをつくっていききたいと思います。国のデータを見れば箕面市でいちばん割合が高いのが70-79歳の20.5%でしたが、国のデータでは14.5%と下がっています。国でいちばん割合が高いのは50-59歳となっています。比較できる表をここに追加したいと思います。

(明石会長)

あるものとなないものがあると思いますが、できるだけそろえて頂くとよいと思います。

(石田委員)

ゲートキーパー講習会に参加していますが、住民にどのように受け止められているのか、それによっては地域のなかで気楽にできたらいいのになと思います。簡単に講師に来てもらえるものなのか、要望したら来てもらえるのか、お願いします。

(事務局)

ゲートキーパー養成講座は年に3回は市民向けに大きな講座をしたり、人権セミナーという形で職員向けに開催していますが、今年度すでに一度行いましたが、民生委員・児童委員から希望があり予算の関係上保健師が講師をしました。また地域から要望がありましたら出向いていきたいと思っています。

(明石会長)

ありがとうございます。齋藤委員、全体を通して何かありますか。

(齋藤委員)

特にございません。活発な議論で重要な指摘がなされた会議でした。

(林委員)

自殺対策では箕面市としては高齢者を中心という流れだと思いますが、若い人、例えば薬学部の子もリモートになって講義がいつでも聴ける、そのわりには課題が多くなっている、友達にも会えない、そして緊急事態宣言が解除になって講座が始まっても授業に行けない、課題が解決していない、生活にメリハリがない、生活に孤立感を感じているなどがあるので、学生に向けての対策も気になります。

薬剤師も、数年前に池田保健所が中心となってゲートキーパーをつくらうという動きがありました。アルコール依存や抗うつ剤を多用しているかたに薬剤師が薬局でゲートキーパーになる講習をしました。どれだけ成果が出ているかは検証が難しいところですが、大学のアルコール依存の専門の先生や抗うつ剤の使いすぎに警鐘を鳴らしている先生を招いたことがあります。そんな

ことも考えてみてはどうかと思います。

(明石会長)

学生については大学の学生課と連携していくことも大切かと思います。

その他

●事務局から説明

(健康福祉政策室より次回の審議会予定について説明)

●意見等

(明石会長)

委員のみなさまから貴重な意見、たくさん頂きましてありがとうございました。今日のことをしっかり受け止めて頂いて計画の中に落とし込んで頂ければと思います。

以上をもちまして第2回箕面市保健医療福祉総合審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上